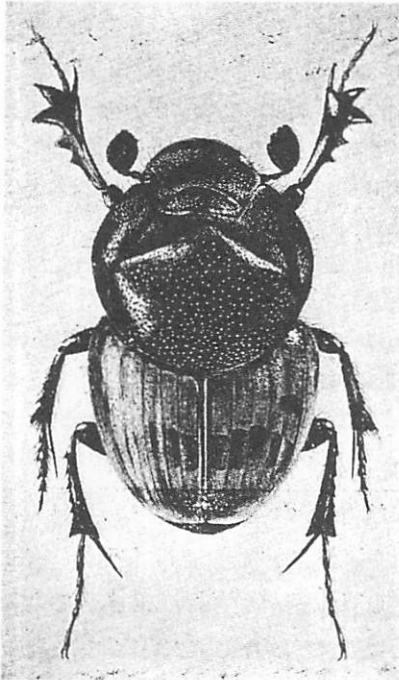


ヤマトエンマコガネの分布について

高橋 寿郎

ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold, 1875 は、神戸に在留したLenz, Tuisonが採集した標本に基づいてHaroldが1875(明治8)年新種記載された糞虫であり、詳しい産地はわからないが神戸産ではないかと考えられる。同年、C.O. Waterhouseは、「日本産鰐角類について」の論文の中で、このヤマトエンマコガネの産地はHiogo and Osaka "At the foot of Maiyasan it has occurred in great plenty" と全く信じられないような記録を残している。当時の摩耶山麓には野猿、野鹿がいたという記録があるから、その



Onthophagus japonicus Harold
ヤマトエンマコガネ
加藤正世・昆虫界VII(67), 1939より

ころこの種が多くいたということはあながち否定はできない。ただ、それ以後全く記録がみられないので、この記録に疑問をいだきながら、残念ながら現在では絶滅した種、いないと云わざるを得ない種と考えている。現在は、日本全国を眺めてみても本種の確実な産地がないような現状であるので、次に文献によってこの種の分布を眺めてみることにした。

1.*Harold, E.V. (1875) Verzeichniss der von Herrn T. Lenz in Japan gesammelten Coleopteren.

Abhandl. Nat. Ver. Bremen, IV: 283-296

Lenz, Tuisonは商人として1874から1880年の間神戸に在留した。その間甲虫類を採集し、その採集品に基づいてHaroldは二篇の論文を発表した。その第一報のp. 290, 17に*Onthophagus japonicus*なる新種記載をされている。これがヤマトエンマコガネの原記載になる。詳しい具体的産地は書いていない。現在*Onthophagus*属*Strandius*亜属に扱われている。

2. C.O. Waterhouse (1875) On the Lamellicorn Coleoptera of Japan.

Trans. ent. Soc. London, Part I: 71-116.

p. 76-77 *Onthophagus japonicus* Harold
Hab. Hiogo and Osaka "At the foot of Maiyasan it has occurred in great plenty."

3. G. Lewis (1879) A Catalogue of Coleoptera from the Japanese Archipelago. London.

p. 13, 875. *Onthophagus japonicus* Harold
種名のみ。

4. Schonfeldt, H.V. (1887) Catalog der Coleopteren von Japan mit Angabe der bezügel-

* 兵庫県甲虫相資料, 302

** 番号は便宜的につけたものである。

- chen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte.
 Jahrb.d.nass.Ver.Naterhunde 40:31-204
 p.104. *Onthophagus japonicus* Harold.
 Hiogo, Osaka, Maiyasan.
5. A.Boucomont et J.J.E.Gillet(1927) W.Junk
 Coleopt.Cat.Pars.90.
 Scarabaeidae:CoprinaeII,Tremittroginae.
 p.139. *Onthophagus japonicus* Harold.
 Japan.
6. 加藤正世(1930) 趣味の昆虫採集 24pls.(4
 coloured)+225p.(三省堂,東京)
 pl.22にヤマトマグソダイコクとして新称をつ
 けて図解したものが本種の初めての図解。
7. 加藤正世(1933) 分類 原色日本昆虫図鑑
 第八輯 鞘翅目 (厚生閣,東京)
 pl.33,f.6. ヤマトマグソダイコク(♂) *Ontho-*
phagus japonicus Harold 分布. 本州, 九州,
 台湾。
8. 須川敏彦(1934) 上州四萬温泉付近に於ける
 甲虫類. 昆虫界 2(12):613-618.
 p.614.18. ヤマトマグソコガネ *Onthophagus*
japonicus Harold. 飛翔中を採集。
9. 加藤正世(1937) だいくこがね亜科の分類.
 昆虫界 5(39):15-19.
 p.19. *Onthophagus japonicus* Harold ヤマ
 トエンマコガネ 分布. 本州, 九州, 台湾。
10. 竹内誠一(1937) 四萬温泉甲虫相. 昆虫界
 5(42):1-15.
 p.4. 鯰角亜目(47) *Onthophagus japonicus*
 Harold ヤマトエンマコガネ Dung-糞より。
11. Matsumura,S.(1937) New *Onthophagus*-spe-
 cies in Japan with a tabular key. *Ins.Mats.*,
 11(4):150-169.
 はじめにTabular key to the *Onthophagous*-
 species of Japan が示され, その中に *Onthopha-*
gus japonicus Har. は出てくるが, 分布など全
 く示されていない。
12. Matsumura,S. The *Onthophagid*-Insects
 from Korea with discriptions of New Spei-
 cies. *Ins. Mats.*,12(1):1-6.
 はじめに A List of the *Onthopgagid* Insects
 from Korea が出ており, 6. *Onthophagus japo-*
nicus Har. *Abh.Nat.Ver.Bremen.* p.290(1874)が
 出ている。分布はKorea:Japanとだけになっている。
13. 関 和一(1938) 奈良. 春日山産糞虫目録.
 昆虫界 6(58):10-14.
 p.13. *Onthophagus japonicus* Harold ヤマト
 エムマコガネ
 稀なようであるが9月下旬より10月上旬までは
 かなり多く産するとある。
14. 三輪勇四郎・中條道夫(1939) 日本産鞘翅目
 分類目録. Pars.5 金龜子虫科
 p.11. *Onthophagus japonicus* Harold ヤマト
 エムマコガネ *Distr.Japan(Honsyu)*
15. 加藤正世(1939) 金龜子図説(3) ヤマト
 エンマコガネ 昆虫界7(67):32-33
16. 水田国康(1955) ヤマトエンマコガネの斑紋.
 新昆虫 8(5):54
 奈良三笠山の人糞より1953年10月15,16,18の3
 日間にわたってヤマトエンマコガネ66頭採集。
17. 後藤光男(1955) 原色日本昆虫図鑑 甲虫篇
 増補改訂版(保育社・大阪)
 pl.29,fig.617. ヤマトエンマコガネ *Ontho-*
phagus japonicus Harold 稀に上翅の黒紋が無
 く全く黄褐色の個体が得られる。ab. *testaceipe-*
nnis Iga et Goto と呼ばれる。本邦では奈良公
 園と佐渡島しか採集されない。分布. 本州, 朝鮮,
 支那. 奈良春日山 V.1942. 標本図説。
18. 中根猛彦. 日本のこがねむし(IV) 昆虫
 学評論7(2):53-57(ref.p.56)
 ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus*
 Harold 分布. 本州, 朝鮮, 支那。
19. 中根猛彦・馬場金太郎(1960) 新潟県
 の金龜子虫類. 市立長岡科学博物館報(4):1-9.

- p.2. 16. *Onthophagus (Strandius) japonicus* Harold ヤマトエンマコガネ Sado:Oda.
20. S.Nomura(1960) List of the Japanese Scarabaeoidea(Coleoptera) Toho Gakuho(10):39-79.
- p.46. ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold. Honshu,Sado,Korea,China.
21. 後藤光男(1962) 日本産食糞コガネムシ類目録(Ⅱ). 日本産甲虫チェックリスト(11)(Ⅳ.1962)(p.4). (日本甲虫学会. 大阪)
22. V.Balthasar(1963) Monographie der Scarabaeidae und Aphodiidae der palaearktischen und Orientalischen Region. Band.2.Coprinae. p.395-396. 234. *Onthophagus (Strandius) japonica* Har. Types in Muséum d'Historii. Naturelle in Paris (Coll.Oberthür)
23. 中根猛彦(1963) 原色昆虫大図鑑Ⅱ(甲虫篇) pl.59, Fig.2, p.117.
ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold 獣糞にくるが局地的に産する。分布。本州, 朝鮮, 支那。
24. 谷 幸三(1966) 奈良公園の糞虫 Nature Study 12(5):3-7.
ヤマトエンマコガネ出現期 4~11月上旬迄。
25. 谷 幸三(1966) 糞虫成虫個体群の生態学的研究 大和の昆虫(3・4):3-10.
26. 後藤光男・土井仲治郎(1966) 奈良県の糞虫 大和の昆虫(3・4):36-47.
ヤマトエンマコガネ 奈良では奈良公園、春日山、高円山等比較的広く分布すると。奈良公園若草山での10exs.の採集例を示されている。
27. 後藤光男(1966) 日本産食糞コガネムシ類仮目録 大和の昆虫(3・4):47-52(ref.p.49)
28. 益本仁雄(1967) 日本産コガネムシ類解説〔食糞群〕Ⅳ. 昆虫と自然 2(4):14-17.
p.16 ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold 本州(奈良), 佐渡, 朝鮮, 支那。「秋季に個体数を増し、人糞を好むそうです」と解説されている。
29. 石田正明(1968) 甲虫とりある記(1) <糞虫篇> 昆虫と自然 3(11):4-5.
八幡平(秋田県)のヤマトエンマコガネについて解説。
30. 北村 豊(1967) ヤマトエンマコガネ牛尾山に産す. 甲虫ニュース(5):3-4.
京都市東山区牛尾山 1♀, 13.X.1968
31. 益本仁雄(1973) フン虫の採集と観察(ニューサイエンス社・東京)
谷 幸三の1966年の報文の引用あり。
32. S.Nomura(1973) Notes on the Coprophagous Lamellicornia from Taiwan. Ent.Rev.Japan 25(1/2):37-52, pl.7-8.
台湾にヤマトエンマコガネを産することは古い文献にも勿論出ている。(加藤正世, 1933,1937) 但し、三輪勇四郎, 台湾産昆虫目録(鞘翅目). 台湾總督府中央研究所農業部報告(1931)の中には出てこない。
本報文で初めて具体的にWushe(Ⅳ)(p.47)と産地が示された(詳しいデータはない。この報文に使用された標本類は、大阪の芝田太一氏のところで昆虫を研究しているグループHayashi, Kobayashi, Kiyoyama, Maeda, Nomura等々の方による1968年から1973年にわたる台湾での採集品である。)
33. 林 長閑(1975) 学習中高生図鑑 昆虫Ⅱ・甲虫(学研・東京)
p.70,411. 美しいカラーで図説。分布は本州, 朝鮮半島, 中国。
34. 益本仁雄(1976) 台湾産食糞コガネムシ解説〔2〕 ELYTRA, Tokyo 4(1):1-8.
ヤマトエンマコガネの台湾での産地を"霧社(7月)"と記録されている。詳しいデータがない。前記 Nomuraの引用かとも考える(採集月が違う)。
35. C.W.Kim(1978) Distribution Atlas of Insects of Korea. Series,2,Coleoptera.
pl.XXXIV, SC13,p.331.

Onthophagus japonicus Harold 南朝鮮での分布はわりと限られた地点のようである。

36. Z.Stebnicka(1980) Scarabaeoidea(Coleoptera) of the Democratic People's Republic of Korea. Acta Zool.Cracov.24(5) : 191-298, 232text-figs.

p.221-222, Figs.18,19. *Onthophagus(Strandius) japonicus* Harold, 1874.

北朝鮮の各地に産するようであり、28♂♀の産地が示されている。註書きにBalthasar(1963)によると日本ではそうそう見られる種ではないが広く分布しているようであり、北朝鮮各地でも似たような分布をしており、いろんなところで得られるが、まとまって得られないとある。

37. 黒沢良彦・渡辺泰明(1984) 野外ハンドブック12. 甲虫 (山と溪谷社・東京)

p.182. 美しいカラーで示されている。和名だけで分布は本州とのみ。

38. 塚本珪一(1985) 日本産*Onthophagus* 属についての覚書. Bull.Heian High School, Kyoto No. 29 : 31-60, pl.1,2.

p.47.26 ヤマトエンマコガネ既知産地を示す。

39. 塚本珪一(1985) 日本産食糞性コガネムシ目録. 京都府私学研究論集 (23):1-25.

p.21-22, *Onthophagus(Strandius) japonicus* Harold, 1875 ヤマトエンマコガネ 分布. Honshu, Korea, China, Formosaとある。

40. 越智輝雄(1985) 原色日本甲虫図鑑(II) (保育社・大阪)

pl.65, f.9, p.358 ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold 秋に多く、乾燥地の獣糞にくるが、産地はきわめて局地的で限られる。本州、佐渡、朝鮮半島、中国、台湾に分布。

41. 塚本珪一(1986) 日本産食糞性コガネムシ類の分布より考察した糞処理能力についての研究。

Bull.Heian High School No.30 : 1-36, pl.2.

pl.1, f.1に *Onthophagus japonicus* の日本における分布を地図上に示し、C型(大陸型)であ

るが、日本では分布域の狭い種で、たぶん朝鮮半島経由で入ってきたのであろうと記されている。

42. 塚本珪一(1987) 日本産食糞性コガネムシ類分布資料(2). Bull.Heian High School(31) : 25-70.

糞虫の都道府県別分布表の中で、ヤマトエンマコガネが示されている。府県名は次のとおりである。Akita, Niigata, Gunma, Kyoto, Nara, Hyogo.

43. 石田正明・藤岡昌介(1988) 日本産コガネムシ主科目録(第一版補訂版) LAMELLICORNIA Suppl.2:16

Onthophagus(Strandius) japonicus Harold, 1873 ヤマトエンマコガネ 本州、佐渡、台湾、朝鮮半島。

44. 塚本珪一(1968) 日本産食糞性コガネムシ類の検索表 京都私学研究論集(26) : 31-47.

ヤマトエンマコガネ 本州、朝鮮、台湾、中国に分布とある。(p.47)

45. 高橋 敏(1991) 奈良公園の甲虫 関西昆虫談話会資料 第1号

p.13 ヤマトエンマコガネ 五雲峰(宇治市) 25.VIII.1990

46. 水田国康(1992) 食糞性コガネムシ類の前胸背幅長と体長の測定 広島虫の会会報(31) : 11-14.

p.12. ここではヤマトエンマコガネは奈良産のものが測定標本として用いられている。

47. 塚本珪一(1993) 日本糞虫記(育土社・東京) 名著であるが、どうしたものかヤマトエンマコガネに関連しての記事がほとんどない(p.226のリストに出てくる)。

筆者が見ることのできたヤマトエンマコガネについての文献類は、貧弱な筆者所有のものからであり、地方誌など充分見ていないので、多くの脱落見落としがあることと思われるが(この点御教示をお願い致したい) 意外と少ないように思われる。それだけにこの糞虫に接することの少ないこ

と、この糞虫に関心のないことによって真の意味の日本における産出状況、分布状況がよくわからない種の1つではないかと考えられる。現在の分布として本州、佐渡、朝鮮半島、中国、台湾があげられる(越智, 1985)。日本以外の状況はともかくとして、日本では現時点で確実に産するといったところがほとんど知られていない。かつて、摩耶山麓に多産した記録はあるが、現在の産出は無理と考えられる。奈良の奈良公園、春日山、高円山などにはごく最近までは多くいたようであるが、ここ十数年来いるといった情報をほとんど知らない。全く産出状況がわからない。一般にいると云った記録は簡単ではあるが、いなくなったとは軽々には云えないように思う。

どちらにしても日本産としては大変特異な珍しい糞虫の1種である。

(追記)

脱稿後(1994年12月)、松江の淀江賢一郎氏から次の文献のコピーを送って頂いた。即ち、

近木英哉(1964) 島根県の昆虫目録Ⅲ 鞘翅目(コガネムシ主科) 島根農科大学研究報告(12A): 24-31.

その中、p.25に"11. *Onthophagus japonicus* Harold ヤマトエンマコガネ VI: 三瓶山"の記録があった。山陰地方からの本種の記録としては

唯一のものと考えられる。大変貴重な記録である。現在どのような状況なのか興味があるし、調べてみたいものである。

この文献コピーを送って頂いた淀江賢一郎氏に厚くお礼申し上げます。

さらに、1994年11月大阪のS社から北朝鮮の糞虫類を入手した。或いはヤマトエンマコガネがはいっていないかと、エンマコガネ類のセットとして30exs.送ってもらったものの中に、やはりヤマトエンマコガネが1♂♀いた。北朝鮮で別に意識して採集されたものではなく、ただ糞虫として採集したものを無作為に糞虫セットとして購入した、その中にこの種を見いだすことができたことは、この採集地(冠帽峰成境北道、北朝鮮北東部 3~6. VII. 1994)あたり北朝鮮には広く分布している種なのかもしれない(塚本珪一氏も朝鮮半島経由で入ってきたものであろうとされている。1986)。

なお、最後になったが筆者自身奈良公園あたり何度か採集に行ったが本種の採集はない。戦前住吉におられた故米谷正司氏宅で同氏が奈良公園で採集された多くの標本を見せて頂いたことがあり、そのうちの1頭貰い受けて保管していたが、この標本も現在、人と自然の博物館の保管となっている。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

イシガケチョウに注目

南国の蝶イシガケチョウは、近年北に分布を拡大しています。岡山県をフィールドとする難波通孝さんは、1994年の初夏から初冬にかけて、岡山県南部で羽化したイシガケチョウが北に分布を拡大していく様子を明らかにされ(1994, イシガケチョウの飛翔 難波通孝著)、調査の過程で区域を兵庫県から福井県まで広げて、福井県まで分布を拡大していることをつきとめられました。

兵庫県内では、大屋町から朝来町を結ぶラインを北限として、第2化の幼虫、蛹が確認されます。県南部では、第1化のイシガケチョウがイヌビワ、イタビカズラや庭のイチジクで発生している可能性が大いにあります。イシガケチョウの情報をお寄せ下さい。

(編集子より)